

第151号 2003年10月1日

こ だ ま

ISSN 0915 - 8782



目 次

ペリー提督『日本遠征記』ともうひとつの遠征記録（山下洋一）	2
図書館利用説明会の開催報告と後期説明会のご案内	6
本学教官著作等寄贈図書リスト（2003/6～2003/8）	7
図書館のトピックス	
大学見学会（オープンキャンパス）で図書館内も盛況	8
中国・江蘇省人材協力代表団が見学	8
公共図書館との協力 さらに推進	9
『就職支援関係図書コーナー』を新設	9
平成14年度購入特別図書	10
としょかん日誌（2003年6月～8月）	10



中国・江蘇省人材協力代表団を案内する和田敬四郎館長

ペリー提督『日本遠征記』ともうひとつの遠征記録

山下 洋一

本年は、幕末の1853年7月に、ペリー提督が第1回目の国交交渉で浦賀を訪れてから150周年の年にあたり、各地で記念行事が行われています。ここ北陸の地、金沢でも、北陸日米文化協会主催による日米交流150周年記念講演会「開国と加賀藩の対応」(講師：徳田寿秋石川県立歴史博物館長)が7月12日(土)に開催されました。この講演会場で、本学が所蔵するペリー提督の『日本遠征記』初版本の第1巻と第2巻をご覧いただく機会があり、多くの方々が関心をもってみられます。好評であったことを関係者の方から伺っています。

本学の『日本遠征記』初版本が、ペリー提督自筆署名入りのものであることは、すでにご存知の方もおられることと思います。なぜ、本学にペリー提督の自筆署名入りの『日本遠征記』が所蔵されているのか、詳しくは本館報128号(1998年1月10日)に橋本前附属図書館長が詳細に紹介されているのでご参照いただき、ここでは、本学所蔵の『日本遠征記』初版本とはどのようなものであるかを書誌学的な観点から紹介し、またこの『日本遠征記』に先立ち刊行された、本学が所蔵するもうひとつの遠征記録についてご紹介いたします。

● 本学所蔵のペリー提督『日本遠征記』は完本か否か

『日本遠征記』の原本は次のような長い書名の付いた書物です。

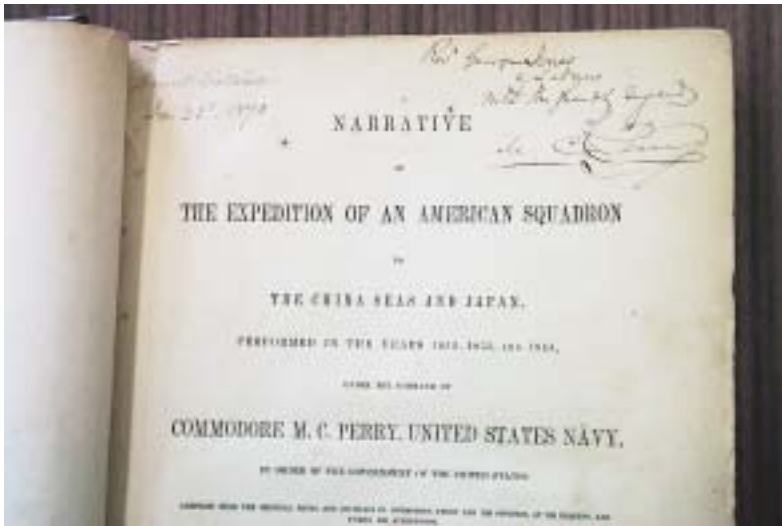
Narrative of the expedition of an American squadron to the China Seas and Japan: performed in the years 1852, 1853, and 1854, under the command of Commodore M. C. Perry, United States Navy, by order of the Government of the United States,

compiled from the original notes and journals of Commodore Perry and his officers, at his request, and under his supervision, by Francis L. Hawks.

この書名は、正確には第1巻目(本文)の書名であり、2巻目(博物学関係等)、3巻目(天体観測図)はそれぞれ異なる書名をもっていますが、米国議会の公式文書(上院では79号、下院では97号)として刊行されたフォリオ版全3巻本を示しています。

先の橋本前附属図書館長の解説にあるように、『日本遠征記』はいくつかの版があり、岩波文庫に収載されている土屋・玉城訳の『ペルリ提督日本遠征記』のはしがきに本当の意味での初版本は仮とじ4巻本で構成され、数十部しか印刷されず、これ以外はすべて3巻本であることが述べられています。しかし、米国議会図書館、米国の歴史ある大学、国内の大学の図書目録を紐解いても4巻本の所蔵記録の確認が得られません。不思議なことにお膝元の議会図書館にも所蔵されていないのです。実は、第1巻目(実際には巻数表示がない。)の序文の末尾の注記に、この1巻に続いて、付録として3冊、第1巻は博物学関係報告、第2巻は天体観測図、第3巻は水路誌、の刊行を準備していると記述されています。このことから、4巻本があるのではと推測されてしまったとも考えられます。あるいは仮綴じということなので、ペリー提督の報告書が、上院に印刷原稿で提出され、上院の出版委員会のメンバーのみに最初の1巻目と、予定している付録としての3冊が配布されたのではないかと、そして実際の刊行時には全3巻本となつたのではと想像することもできますが、これも推測の域をでません。

この『日本遠征記』は、米国議会上院、下院でそれぞれ印刷・刊行が承認され、かつ各院で印刷部数まで議会承認を得ている資料です。当時の



『日本遠征記』標題誌。右上がペリーの署名

議会上院の印刷所として、Beverley Tucker、下院にはA.O.P. Nicholsonがあり、刊行部数は、上院が5000部の印刷（後に海軍用として500部追加が認められている。）、下院が10500部の印刷が承認され、各院からそれぞれ500部、合計1000部がペリーに贈呈されています。特に上院の議事録では、追加で5000部と記述されているので、4巻本の存在もあるのではと思われますが、この印刷・刊行が承認されたのは、ペリー提督が帰国した直後のことで、この段階では、原稿も完成していなかった時期ですから、印刷前の原稿が提出されたとは考えにくいのです。残念ながら仮綴じ4巻本の存在を確認する術がみつかりません。

本学が所蔵する『日本遠征記』は、明らかに議会からペリー提督に贈られた1000冊のなかの1冊です。しかし、自筆署名入りの第1巻が下院版ですが、第2巻、第3巻は上院版となっていて、惜しむらくは版が揃っていないことが多少悔やまれます。（上院版も下院版も同じ版を用いており、実質的には、米国政府印刷所として刊行されたものに違いはないのですが。）

我が国に所蔵している『日本遠征記』は、数多くありますが、ほぼ上院版、下院版共に同じく、すべて3巻本であり、4巻本の存在をみることはありません。たまたま、国立情報学研究所の全国オンライン目録（Webcat）で、書誌を確認しているときに、東大経済学部の図書館に4巻本で所蔵

されている記録があったので、現物確認をしてもらったところ、過去に間違いであることが確認されていて、書誌を修正したが、修正前の記録がそのまま残っていたということでした。やはり3巻本であり、そのときに4冊目の資料は、後述する資料であることが判明しました。少なくとも、当初予定していた前述の付録3巻目の水路誌は、3巻本では、第2巻の後半部分に以下の報告書名で収載され、水路図も14枚合綴されています。

Sailing directions and nautical remarks: by officers of the late U. S. Naval expedition to Japan, under the command of Commodore M. C. Perry

ちなみにこの水路誌は、A.O.P. Nicholsonから1857年に単独で刊行されていることも分かっています。このように単独で報告書が印刷・刊行されているケースは、このほか日本近海の魚類図の報告などにもみられます。

当時、ペリー提督の『日本遠征記』は、議会印刷所から刊行された以外にN. Y. のAppleton社という出版社から刊行された普及版もあり、諸外国に門戸を閉ざし、東洋の神秘の国であった島国日本に開国をせまり、和親条約を締結したことで反響を呼び、今で言うベストセラー本となったようです。そのことにより、『日本遠征記』のなかの幾つかの報告が単独で印刷・刊行されたものと思われる。

もうひとつの遠征記録

本学が所蔵しているペリー提督のもうひとつの遠征記録（以下『遠征記録』という。）は、下記の書名で1855年2月に米国第33回議会第2会期の上院行政文書34号として上院で承認を受け、同時に5000部の印刷・刊行が許可されています。先の『日本遠征記』同様、ペリー提督にもそのうち250部が贈呈されています。背表紙には、Japan / Perryと二段に分けて表示され、全195頁、B5版サイズで刊行されています。

Message of the President of the United States, transmitting A report of the Secretary of the Navy, in compliance with a resolution of the Senate of December 6, 1854, calling for correspondence, &c., relative to the naval expedition to Japan. (Senate. 33d Congress, 2d Session. Ex. Doc. No.34) 1855

これは、標題にも記述されているように、日本遠征に関わる海軍省の訓令、ペリー提督の通信書簡、条約締結の経緯などを上院に報告せよという決議に対して、時の大統領ピアースがその決議に応えたもので、『日本遠征記』の刊行に先立つ1年前ということになります。実はつきあわせてみるとよくわかるのですが、『日本遠征記』の第1巻の大部分は、この『遠征記録』のなかにある書簡、報告からまとめられています。

『遠征記録』は、1852年11月5日付けのコンラッド國務長官代行からケネディ海軍長官へ宛てた大統領の日本遠征に関するペリー提督への指示内容の書簡と、それを受けた11月13日付け海軍長官ケネディからペリー提督に対する指示の書簡に始まり、1855年1月20日付けのペリー提督から將軍宛書簡の再送付に関する書簡に至るまでの海軍とペリー提督との通信記録、ペリー提督自身の2度にわたる日本来航の交渉の経緯が収載されています。

『日本遠征記』は、歴史家ホークス（F. L. Hawks）がペリー提督から依頼され、編集・執筆していますが、この『遠征記録』のなかの多くの書簡、記録類はペリー提督からホークスに渡されています。しかし、『日本遠征記』に採録されている書簡もあれば、ホークスの言葉に置き換えられてしまって、書簡そのものが採録されずにまとめられたものも数多くあります。『遠征記録』は、国内では数冊程度の所蔵を確認できますが、絶対数が少なく、歴史資料の観点から、また『日本遠征記』を補完するという意味でも大変重要な資料であることが分かります。また歴史に関心のある方にとっては、この両者を比較しながら読むと、結構おもしろい読みものになる

のではないかと思います。

ペリー提督の“白旗書簡”はありやなしや

皆さん、ペリー提督の“白旗書簡”という論争をご存知でしょうか。日米和親条約は友好的な状況下で結ばれた条約ということでしたが、本当のところこの条約は名実共にペリー提督の“白旗書簡”に象徴される砲艦外交の結果に基づく条約であるという説があります。それは、ペリー提督の個人日記が100年以上経った1968年に初めて公刊され、その翻訳が『ペリー日本遠征日記』（金井訳）（以下『遠征日記』という。）として1985年に雄松堂から出版されました。その『遠征日記』と『日本遠征記』に記述されているペリー提督の將軍宛書簡の数の違いにより、以前から日本側に残っていたペリー提督の白旗に関する翻訳書簡の真偽論争が盛り上がった事件でありました（松本健一：白旗伝説、講談社、1998年）。

実は、『遠征日記』の国交交渉に関わる部分は、『日本遠征記』同様、すでにここに紹介する1855年に刊行された『遠征記録』に収録されています。

將軍宛ペリー提督書簡の数の違いも、『遠征日記』に記述されている内容とも合致しており、『日本遠征記』との違いは、およそ150年前の刊行当初からあり、『遠征日記』が初出ではなく、この『遠征



ペリー提督の『遠征記録』標題誌

記録』のうえでも確認されたことなのです。

『遠征記録』では、ペリー提督第1回目の来航の折、將軍宛に大統領の親書、信任状のほか、本人から將軍あての書簡が3通、併せて5通幕府側浦賀奉行戸田伊豆守に渡されたことになっています。そのペリー提督の書簡のひとつが、有り体に言えば、“通商を拒否したければ、干戈を交えてもよい、和睦を乞う場合には、白旗を掲げよ”という内容の書簡で、併せてそのときに白旗を二旗贈ったという記録が日本側に残されていることが判明しています（東京帝国大学史料編纂掛編「大日本古文書　幕末外国関係文書之一」1910年）。

しかし、国内からはそれは偽文書であるとの声もあり、米国側にもそのような書簡が残されていないことになっていて、未だに真偽が明らかになっていません。『日本遠征記』にはペリー提督から將軍あての書簡は2通と記載され、そのうえで第3の書簡はすでに紹介しているという表現で、3通あるような書き方をしていますが、第3の書簡というのは、『遠征記録』では、1853年7月14日の会談の前々日7月12日に浦賀奉行所役人香山栄左衛門を介して渡したもので、幕府要人との会談日取りの要請書簡です。それとは別に7月14日の記録の箇所では、当日の会談の席上で自身の書簡を3通渡したことを本人が書いています。従って、7月12日と7月14日に渡した書簡は計4通となりますが、7月14日に渡した3通のうちの2通は、内容が判明しています。ひとつは、7月5日の日付で、開国の必要性和大統領親書の受諾を要請した書簡であり、ふたつ目は、7月14日の日付で、大統領親書に対する回答を翌春に受けとるという内容の書簡です。残りの1通が内容不明となっていて、これが前述した日本側に残された翻訳の“白旗書簡”ではないかという説が囁かれているのです。

ペリー提督が間違えたのか、ホークスがペリー提督の指示により修正したものか、今もって不明です。常識的には、threeをtwoと間違えるとは考えにくいのですが。しかも、この『遠征記録』では、ペリー提督が遠征後ヨーロッパを回って帰国した直後の1855年1月20日付けで、“説明のつかない理由で送付されなかった書簡2通を今ここに

提出する”という海軍省宛の書簡があえて収録されていて、3通のうち、前述の2通の内容を収載しています。しかし、この書簡は、7月14日に渡した書簡が2通だったことを殊更強調しているようで、何らかの作為が感じられます。

もしペリー提督の“白旗書簡”が存在したとするならば、日本との友好的な国交を望んでいたフィルモア大統領の意に反する行為とみなされ、それを恐れて海軍省が内密に隠蔽してしまったのではないのでしょうか。最後の再送付の書簡は“白旗書簡”存在の隠蔽を傍証する行動のように映ります。

この『遠征記録』には、ペリー提督が海軍省に送ったすべての通信文が収録されているのではありません。通信記録の一連の番号からみて収載されていないものも数多くあります。その多くは、7月14日の第一回来訪後の10月頃から次の訪問に向けて準備をしていた期間、翌年1月にかけて4ヶ月間に集中しています。ここに謎が残されているのかも知れません。

例えば、1853年11月14日付けのドビン海軍長官の書簡が掲載されているページの欄外に議会に提出されていないペリー提督の極秘通信文からの抜粋であることを注記している件があります。そこには、日本には、高度な農工技術があり、新しい砲台がたくさん作られ、水域には大きな船が何隻も浮かび、翌春の来訪に備えている兆候があるので、あらたに蒸気艦船パーモント号を支配下に置きたい旨の希望が海軍省に寄せられています。これに対して、ドビン海軍長官は友好目的の来訪であり、防衛のためにはペリー提督の指揮下にある現艦船で十分であり、戦争宣言は議会のみが決定されるものであると回答している文書もあります。

ペリー提督の一部の通信文・書簡は、機密文書の扱いとされ、“白旗書簡”の真相は海軍省の軍事機密文書のなかに隠されているのか、関係者のみの知るところで永遠に地上から十字架の墓下に埋葬されてしまったのか、それとも最初から存在せず、あくまで日本側の作為による偽翻訳書簡なのか、真相解明は、今後の研究、新たな資料発掘に期待したいと思います。

（附属図書館事務部長）

図書館利用説明会の開催報告と後期説明会のご案内

附属図書館（中央館）では、これまで例年、利用者への図書館ガイダンスとして4月～6月、10月～11月にかけて、「昼休み利用説明会」「ゼミ単位等利用説明会」を開催していますが、本年度新たに、「定例説明会」を始めました。前期期間に開催した各説明会の参加人数（表1）や、反省点と、これから開催する説明会についての概要をお知らせします。

「昼休み説明会」は、正味20分という時間で館内ツアーや、コンピュータ実習を含む検索説明を行うもので、気軽さが受けてか、多数の参加がありました。しかし、検索説明では実習の途中で時間切れとなったり、コンピュータの台数に制限され、1台を複数の参加者で使用するなど課題もあります。

「ゼミ単位等説明会」は、申し込まれた方と相談しながら内容を決めています。時間は1時間から1時間半と充分あるため、実習にもじっくり取り組むことができ、理解が深まったと、概ね好評を得ています。また今年は分館や学部ゼミ室などへの出前開催も試みました。

「定例説明会」は、「昼休み説明会」を発展させたもので、詳しい説明と充分な実習時間を確保するため1時間とし、週1回、5月は火曜日、6月は木曜日に開催しました。内容的には「館内ツアーとOPAC」への参加者が少なく、5、6月では「館内ツアー」は時期遅れであったかと、これは反省点です。「論文検索」は回を追うごとに参加者が増え、利用者のニーズを感じ取ることができました。

10月から後期の説明会が始まります。（表2）前期の反省点を踏まえ、気持ちも新たに取り組む予定です。利用者の皆さん、図書館の上手な利用法をマスターして勉学や研究に役立たせてください。より多くの方の参加を待っています。

ゼミ単位やグループ単位の説明会は、随時申し込みを受け付けていますので、カウンターや参考調査係までお気軽にお声をかけてください。

（参考調査係：内線5213

e-mail: sanko@kenroku.kanazawa-u.ac.jp）

表1（前期報告）

名称	内容	回数	参加人数
昼 休 み 説 明 会	館内ツアー	5	211
	OPAC検索	5	29
	日本語論文検索	5	40
	英語論文検索	5	23
定 例 説 明 会	ツアーとOPAC	4	3
	日本語論文検索	4	30
ゼミ単位等説明会		11	322

表2（後期概要）

名称	開催日	時間	内容
昼 休 み 説 明 会	10月 6日～10日	12:10～12:30	OPAC検索
	14～17日	12:10～12:30	英語論文検索
	20～24日	12:10～12:30	日本語論文検索
定 例 説 明 会	10月 7, 21日	14:30～15:30	論文検索（日・英）
	14, 28日	16:00～17:00	電子ジャーナルの利用
	11月 6, 20日	14:30～15:30	論文検索（日・英）
	12, 27日	16:00～17:00	電子ジャーナルの利用

（参考調査係 野村洋子）

ありがとうございました
 本学教官著作等寄贈図書リスト
 (2003/6 ~ 2003/8)

弁納才一 (経済学部助教授) 著
 近代中国農村経済史の研究 (金沢大学経済学部研究叢書; 12)
 金沢大学経済学部 2003.3
 <図開架 611.922:B472>

古畑 徹 (文学部教授) 執筆
 日本と渤海の古代史
 山川出版社 2003.5
 <図開架 222.5:N719>

河田史宝 (教育学部附属中学校養護教諭) 改定委員
 新版・養護教諭執務のてびき 第4版
 東山書房 2003.5
 <図開架 374.9:S556>

畑田恵利子 (医学部助手) 著
 無数のわたしがふきぬけている
 詩学社 2003.5
 <図開架 911.56:H361>

井東廉介 (非常勤講師) 訳
 水素エネルギー入門
 西田書店 2003.6
 <図開架 501.6:B665>

田崎和江 (理学部教授) 編集・監修
 環境よもやま話 (地球環境シリーズ)
 金沢大学理学部地球学科 1998.8-2003.2
 5冊
 1: 金沢大学からの発信
 2: 金沢大学からの発信 part2
 3: 『抗菌』の裏事情
 4: ねんどとあそぼう! やきもののづくり
 5: 金沢水物語
 <図開架 519:K16>

田崎和江 (理学部教授) 編
 地球 - 水 - 人間 / 田崎和江, 碓山洋編
 金沢大学 1999.8
 <図書庫 519.4:C534>

田崎和江 (理学部教授) 執筆
 北陸の自然をたずねて (新訂版 日曜の地学; 6)
 築地書館 2001.3
 <図開架 455.1:N594:6>

田崎和江 (理学部教授) 編
 Water and Soil Environments;
 Microorganisms play an important role.
 Kanazawa University, 2003
 “21st century COE Kanazawa University
 Long-and Short- term Dynamics of Pan-Japan
 Sea Area.”
 <図開架 450.4:W324>

田崎和江 (理学部教授) 編
 Water and Soil Environments; Biological and
 Geological Perspectives. Kanazawa University,
 2003
 “International Symposium of the Kanazawa
 University 21st-Century COE Program.”
 <図開架 450.4:I61>

岩田 礼 (文学部教授) 共訳
 中国の方言地理学のために / W.A. グローター
 ス著
 好文出版 1994.9
 <図開架 828:G876>

岡田 晃 (名誉教授) 共著
 振動障害; 35年の軌跡
 労働調査会 2003.2
 <図開架 498.82:N269>



(田崎教授の21世紀COE関連図書)

ご著作は ぜひ 図書館へ
 ご寄贈ください。

図書館のトピックス



大学見学会（オープンキャンパス）で図書館内も盛況

8月9日（土）本学を志望する高校生対象に教育内容等を紹介する大学見学会が開催され，附属図書館では，検索コーナーや書架は一日中見学者で賑わい，見学の入館者は，中央館約1,100名，医学部分館約200名を数えました。



中国・江蘇省人材協力代表団が見学

日中平和友好条約締結25周年記念訪日団として来県中の人材協力代表団が，8月26日（火）学長表敬のあと，附属図書館のサービスコーナーや特別資料室等館内を熱心に見学されました。



（自動貸出返却装置の操作説明）

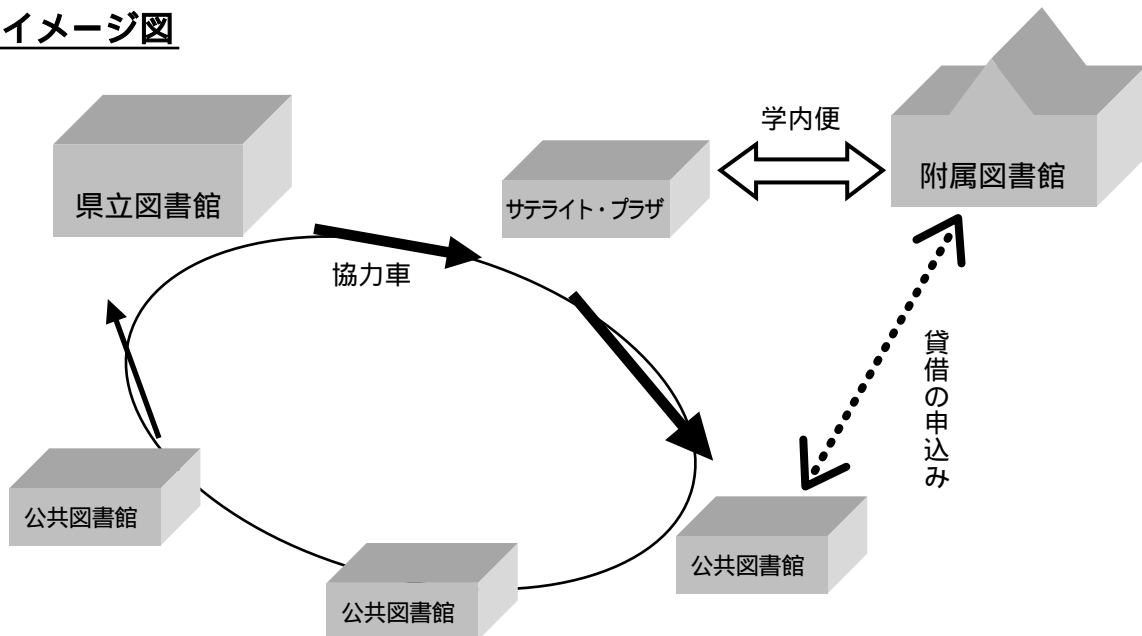


（特別資料室で金沢古地図などを見入る）

公共図書館との協力　さらに推進

これまで県内公共図書館との貸借資料の受渡しは郵送のみでしたが，関係組織のご協力により，9月8日（月）以降は，本学のサテライトプラザに石川県立図書館の協力車が立ち寄り図書館資料を受渡するシステムが構築され，当館と県内公共図書館の相互協力が更に前進します。

イメージ図



『就職支援関係図書コーナー』を新設

学生諸君の就職活動を支援するための資料を集めたコーナーを新設しました。

今年度は新刊の図書約550点を収集しました。各業種の就職試験，資格試験の過去問題集，対策本をはじめ，面接に役立つ資料や仕事内容を紹介する資料をとりそろえました。（ビデオ資料も数点含んでいます。）



配架場所は，中央館2階（玄関のある階）の留学生用資料コーナーの続きです。

OPACで検索すると請求記号の先頭にアルファベットの「Q」がついています。実際の本の背ラベルは次のようになっています。

（例）

就職活動始めるブック　2005年度版
／就職情報研究会編
（実務教育出版，2003）」

Q366.
29
S562
2005

平成14年度購入特別図書

1. 社会政策大系 (全10巻)
日本図書センター 2002
<図開架 308.S527>
2. 生きる力をはぐくむ算数授業の創造: CREAM
(13巻+ガイドブック+学習資料集)
ニチブン 1999
<図開架 375.412:I26>
3. 生きる力をはぐくむ算数授業の創造: CREAM
(VTR3巻)
ニチブン 1999
<図開架 375.412:VT1352 ~ VT1354>
4. 教育基本法制コンメンタール 第 ~ 期
(各全10巻)
日本図書センター 1998 ~ 2002
<図開架 911.56:H361>
5. 朝鮮及満洲 [復刻版] (25巻 ~ 33巻)
皓星社 2001.9
<図>地階書庫
6. 労働判例 DVD (創刊号 ~ 800号)
産労総合研究所 2002
<図開架 320.5:DVD-ROM:1>
2階CD-ROMコーナー
7. 中国国家図書館蔵敦煌遺書
(第1巻 ~ 第7巻)
江蘇古籍出版社 1999-2001
<図書庫大型 082.7:C559>
8. 広島県史 (全27巻)
広島県 1972-1984
<図書庫 217.6:H668>
9. Theatre du Grand Siecle; Corneille Moliere Racine
DVD
Chadwyck-Healey France, 1996
2階CD-ROMコーナー

としょかん日誌(2003年6月 ~ 8月)

- | | |
|---|---|
| <p>6月11日 2003年EDC/DEPトレーニング・セッション
~ 13日 (東京都)伊川麻里子(雑誌電子情報係)出席</p> <p>6月23日 平成15年度漢籍整理長期研修(東京大学)
~ 7月4日 池上佳芳里(図書情報係)参加</p> <p>6月25日 国立大学図書館協議会第50回記念総会(大宮ソニックシティ)和田敬四郎(図書館長), 山下洋一(事務部長), 鈴木太郎(情報管理課長)出席</p> <p>6月26日 平成15年度社会教育主事等研修(石川県立図書館)谷口貞治(資料サービス係長)派遣</p> <p>7月3日 2003年金沢工業大学/米国図書館・情報振興財団 図書館・情報科学に関する国際ラウンドテーブル会議(金沢工業大学)鈴木太郎(情報管理課長), 牧村正史(情報サービス課長)出席</p> | <p>7月11日 平成15年度石川県大学図書館協議会定例会議及び講演会(石川県立看護大学)越野正勝(情報管理課専門員), 村田勝俊(相互利用係長)出席</p> <p>7月23日 わく・ワーク(work)体験 金沢市立兼六中学校生徒2名当館で職場体験</p> <p>8月1日 平成15年度第一回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会(国立情報学研究所)山下洋一(事務部長)出席</p> <p>8月4日 第4回西洋古典資料保存講習会(一橋大学) ~ 6日 池上佳芳里(図書情報係)出席</p> <p>8月5日 第15回北信越地区医学図書館員研修会(新潟大学)岩網外志子(医学部分館図書係長), 守本瞬(医学部分館図書係)出席</p> <p>8月9日 大学見学会(オープンキャンパス)高校生当館見学</p> <p>8月27日 平成15年度図書館等職員著作権実務講習会 ~ 29日 (岡山大学)池上佳芳里(図書情報係)出席</p> |
|---|---|

金沢大学附属図書館報「こだま」第151号

発行: 金沢大学附属図書館 編集: 広報委員会

〒920-1192 金沢市角間町 電話(076)264-5200

ホームページURL <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

電子メールアドレス etsuran@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

読者の皆様からのおたよりをお待ちしております。

2003年10月1日発行

印刷: 活文堂印刷株式会社

表題地模様 Toku Yusui(加賀友禅染絵『さやぐ, おどる』。由水十久(初代。1913 - 1988)は金沢出身の加賀友禅作家です。)